C-7

# 琉球諸語における二重使役構文の述語形式

當山　奈那


## 要旨

琉球諸語の使役形式には，ス相当形式とシム相当形式，シミラス相当形式の 3 つがある。このうち，どの形式を持つかは琉球諸語内で異なっており，大きく 3 つのタイプがある。また，琉球諸語ではシム相当形式にス相当形式が後接し，融合した形式であるシミラス相当形式が二重使役の専用形式として機能する。本報告では，使役文をさらに派生させた（間接的な使役主体が存在する）構文を二重使役構文とよび，どの使役形式が二重使役構文の述語に現れるかを注視し，琉球諸語の二重使役の発展について考察する。まず，琉球諸語内の使役形式とその分布について述べ，二重使役構文の述語に用いられる使役形式を示し，シム形式を持つ場合，二重使役構文の述語形式はシムを含む形式が現れることを指摘する。琉球諸語では，シム形式のみをもつ使役のタイプから，ス形式とシム形式をもつ使役のタイプへと発展し，そこでシム形式が二重使役を示す役割を担うようになったことから，さらにシミラス形式を発生させた。


## 1．首里方言の使役文からみた問題の所在

使役文は，人が他者に対して何らかの働きかけをしてある動作を行わせることを表す。使役主体を主語，動作主体を補語にする。琉球諸語では，動詞に使役接辞を後接して派生させた使役動詞を述語にする。例えば，首里方言では，他動詞文をもとにして使役文を作る時，次のように補語の動作主体は助詞=nkai をつけて表す。

(1) *taro:=ga*　*mizi*　*nu-da-n.*　（首里・他動詞文）
太郎=NOM　水.ACC　飲む-PST-IND
「太郎が水を飲んだ。」

(2) *ziro:=ga*　*taro:=nkai*　*mizi*　*num-a-cja-n.*　（首里・使役文）
次郎=NOM　太郎=ALL　水.ACC　飲む-CI-PST-IND
「次郎が太郎に水を飲ませた。」

首里方言の使役形式には，-(a)sun，-(a)simi:n，-(a)simirasun の 3 つがある。本報告では，それぞれの形式を古典日本語との対応関係をふまえて，ス形式，シム形式，シミラス形式と呼ぶ。シミラス形式はシム形式にス形式が後接したものと考える（なお，ス形式にシム形式が後接した形式，つまり逆の形式は琉球諸語の中にない）。

(3) 首里方言の使役形式

*num-asun*（飲ませる）　ス形式（CI）
飲む-CI

*num-asimi:n*（飲ませる）　シム形式（CII）
飲む-CII

*num-asimir-asun*（飲まさせる）　シミラス形式（CIII＝CII+CI）
飲む-CII-CI

ス形式とシム形式は，基本的に，使役文の動作のきっかけが使役主体にあるか動作主体にあるかで区別され

る。前者が述語に用いられる場合，動作のきっかけは使役主体にあり，使役文は〈強制〉や〈指令〉の意味をあらわす。後者が述語に用いられる場合，動作のきっかけは動作主体にあり，使役文は〈許可〉や〈放任〉をあらわす。

(4) *taru:=ga* *hanako:=nkai* *mizi* *num-as-un*.（首里，指令）
太郎=NOM 花子=ALL 水.ACC 飲む-CI-IND
「太郎が花子に水を飲ませる。」

(5) *taru:=ga* *hanako:= nkai* *mizi* *num-asimi:-n*.（首里，許可）
太郎=NOM 花子=ALL 水.ACC 飲む-CII-IND
「太郎が花子に水を飲ませる。」

しかし，nagasun（流す）のような他動詞や，kurusun（殺す）のような語根末子音が-s である他動詞からはス形式の使役動詞を作ることができない。このス形の使役動詞の派生の制限に伴って，シム形の使役文が〈指令〉も〈許可〉の意味も表し，動作のきっかけが使役主体か動作主体かのどちらかにあるのかによる区別がなくなることがある。

(6) *aja:=ga* *ta:ri:=nkai* *hwi:ra:* *kuru-simi-ta-n*.（首里，指令・許可）
母=ALL 父=ALL ごきぶり.ACC 殺す- CII-PST-IND
「母が父にゴキブリを殺させた。」

シミラス形式は，使役文をさらに派生させた二重使役の述語になる。例 7 では，「タルー（太郎）」は「ハナコー（花子）」に動作をさしむける使役主体であると同時に「ジルー（次郎）」からそのことをしむけられる使役相手でもある。シミラス形式は，二重使役の専用形式としてあらわれる。しかし，首里や恩納では，二重使役の例で述語をシム相当形式に置き換えることが可能な場合もある。例 7 はシミラス相当形式をシム形式に置き換えても，使役主体のほかに間接的な使役主体が存在する，という意味構造は変わらない。ただし，例 8 のように，語根末子音が-s である他動詞から派生した使役動詞の場合，二重使役の述語をシム形式に置き換えることはできない。

(7) *ziru:=ga* *taru:=ni* *hanako:=nkai* *mizi* { *num-asimir-as-un* / *num-asimi:-n* }.
次郎=NOM 太郎=DAT 花子=ALL 水.ACC 飲む-CIII-CI-IND 飲む-CII-IND
「次郎が太郎に（言って，）花子に水を飲ま（さ）せる。」（首里）

(8) *hanako:=ga* *aja:=nkai* *ija:ni* *ta:ri:=nkai* *hwi:ra:*
花子=NOM 母=ALL 言って 父=ALL ごきぶり.ACC
{ *kuru-simira-cja-n* / ＊*kuru-simi-ta-n* }.
殺す-CIII-PST-IND 殺す- CII-PST-IND
「花子が母に言って，父にゴキブリを殺させた。」（首里）

琉球諸語では松本(1983)，島袋(2009)，當山(2013)，狩俣(2021)で二重使役の存在が指摘されている。このうち，松本(1983)では，単純使役動詞と二重使役動詞の対立を持つことを指摘しており，喜界島の二重使役動詞は接辞-(a)s-を重ねることで作ることも述べている。二重使役（Kulikov, L.I. 2001 他）は，使役の接辞を複数個加えて派生した使役文のタイプを示すが，本報告では、上の例のように使役文をさらに派生させた（間接的な使役主体が存在する）構文を二重使役構文とよび，広く捉え、どの使役形式が現れるかを注視することで、琉球諸語の二重使役の発展について考察する。

## 2. 琉球諸語各地点の使役形式と使役文

まず，琉球諸語内の使役形式とその分布について述べ、二重使役構文の述語に用いられる使役形式についてまとめる。琉球諸語内の使役形式は，**1.ス形式のみをもつ・2.ス形式とシム形式を持つ（2-a.ス、シム、シミラス形式をもつ・2-b.ス、シム形式をもつ）**，**3.シム形式のみをもつ**，のタイプがみられる。

既存の琉球諸語の資料と報告者による調査ノート（与那国については目差さんから提供していただいた調査ノート）を用いて分析を行った。図1に対象とした地点を示し，表 1 に各地点で確認できた使役形式を示す。

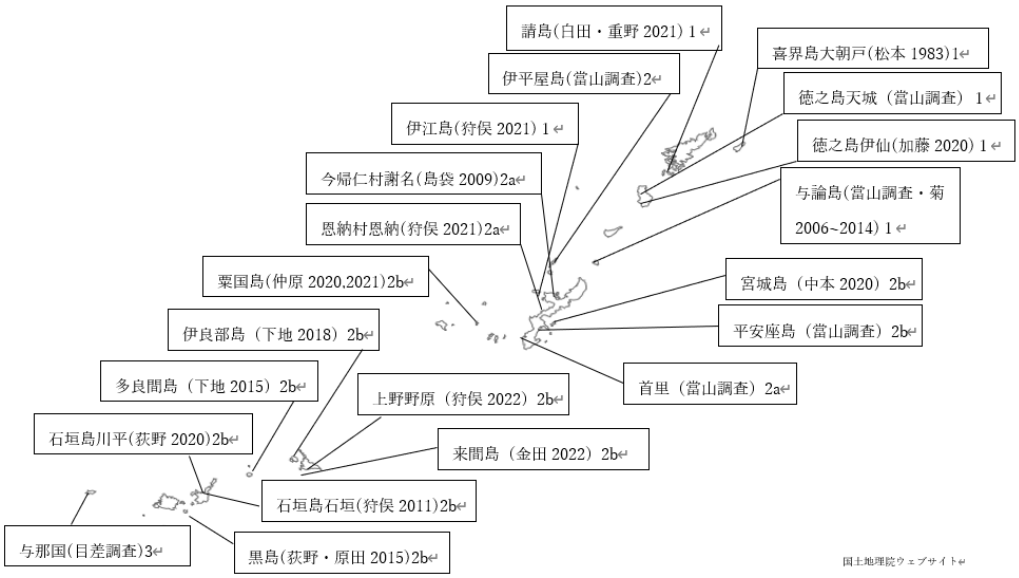


図 1.対象地点

| | | ス形式 | シム形式 | シミラス形式 |
|---|---|---|---|---|
| 喜界島大朝戸 | 1 | ✓ | (✓) | |
| 請島 | 1 | ✓ | (✓) | |
| 徳之島（天城） | 1 | ✓ | (✓) | |
| 徳之島（伊仙） | 1 | ✓ | | |
| 与論島 | 1 | ✓ | (✓) | (✓) |
| 伊平屋島 | 2a | ✓ | ✓ | ✓ |
| 伊江島 | 1 | ✓ | (✓) | (✓) |
| 今帰仁村謝名 | 2a | ✓ | ✓ | ✓ |
| 恩納村恩納 | 2a | ✓ | ✓ | ✓ |
| 宮城島 | 2b | ✓ | ✓ | |
| 平安座島 | 2b | ✓ | ✓ | |
| 粟国島（東，浜） | 2b | ✓ | ✓ | |
| 首里 | 2a | ✓ | ✓ | ✓ |
| 伊良部島 | 2b | ✓ | ✓ | |
| 宮古上野野原 | 2b | ✓ | ✓ | |
| 来間島 | 2b | ✓ | ✓ | |
| 多良間島 | 2b | ✓ | ✓ | |
| 石垣島川平 | 2b | ✓ | ✓ | |
| 石垣島石垣 | 2b | ✓ | ✓ | |
| 黒島 | 2b | ✓ | ✓ | |
| 与那国島 | 3 | (✓) | ✓ | |

表 1. 琉球諸語の使役形式のタイプ

図 1 の最後の 1～3 の数字は，上述した 1～3 の分類のグループと対応している。表 1 の (✓)のように()で示した箇所は，当該形式が痕跡的に確認できたことを示している。空白は，当該形式が確認できなかったことを表す。表の地域は北から並べている。

### 2.1. タイプ 1 (ス形式のみをもつ)

地域的には喜界島大朝戸，請島，徳之島（天城・伊仙），与論島，伊江島のような，奄美語や国頭語だが，沖縄島北部はタイプ 2 に当てはまる地域が多いため，伊江島がこのグループに該当するのは特徴的である。沖縄島北部に属する奥方言もタイプ1に該当する（狩俣繁久私信）。シム形は，「勉強する」，「掃除する」のような「スル動詞」に対応する動詞の使役形にのみ見られるという点で，痕跡的に観察される。与論，伊江島では，スル動詞に限って，シミラス形も確認した。文法上の違いは不明である（菊 2014 は，例 10 をシム形式にしても違いはないと述べている）。

(9) *sigutu* *sjun.* / *sigutu* *simjun.* （与論）
仕事 する 仕事 する. CII.IND
「仕事する／仕事させる。」
(10) 不良品=ヤ ホータル 店=ノンティ ヘーゲー シミラチャン. （与論;菊 2014）
不良品=は 買った 店=で 交換 する. CIII.PST.IND
「不良品は買った店で交換させる。」

請島，徳之島天城はシム形が痕跡的に確認できた。徳之島伊仙のみシム形を持たず，完全に 1 形式になっている可能性がある。

(11) a:zja=ja nïnnïn hatewa:ku sïmï:tïda:.（徳之島天城）
父=は 兄に 畑仕事 する.CII.PST.FP
「お父さんは兄に畑仕事をさせた」
(12) azja=ja mɨini hatesigjutu saatji（徳之島伊仙；加藤 2020）
父=は 兄に 畑仕事 する. CI.SEQ
「お父さんは兄に畑仕事をさせた」

このタイプは，〈指令〉も〈許可〉もス形式が表し，二重使役の例を訳してもらうと，ス形式を重ねることで示す。

(13) *ʔozisan=ga* *ʔacja:=kati* *sai* *num-as-ju:-ta-ɴ*.（与論，指令・許可）
おじ=NOM 父=ALL 酒.ACC 飲む-CI-IPFV-PST-IND
「おじが父に酒を飲ませていた。」
(14) ワラビンチャー=ヌ ウイギチャサ シラリティ ウイガチャン。（与論，許可；菊 2014）
子供たち=が 泳ぎたさ されて 泳ぐ.CI.PST.IND
「子供達が泳ぎたがっていたので，泳がせた。」
(15) *tara:=ga* *hanako=kati* *gancici* *ziro:=kati* *kusuri* *num-as-a-ɸa-n*.（与論，二重使役）
太郎=が 花子=に 言って 次郎=に 薬を 飲む-CI-CI-PST-IND
「太郎が花子に言って，次郎に薬を飲ま（さ）せた。」

## 2.2. タイプ 2（2-b ス形式，シム形式をもつ）

沖縄諸島に分布する伊平屋島，今帰仁村謝名，恩納村恩納，宮城島，平安座島，粟国島，首里及び，南琉球に分布する伊良部島，宮古島上野野原，来間島，多良間島，石垣島川平，石垣島石垣，黒島が該当する。このタイプは，さらに，シミラス形を作ることができるかどうかで，**(2−a)ス形，シム形，シミラス形を持つ(2−b)ス形，シム形を持つ**に分かれる。シミラス形は南琉球では確認できなかった。

2-a のタイプの特徴は，次の恩納村恩納の例に見られるように，ス形とシム形とが存在し，かつ，指令か許可かというような動作のきっかけによる使い分けがあることである。また，s 語幹末動詞はス形を派生できない制限がある。そして，シミラス形が存在し，二重使役構文専用の述語形式として現れる，あるいは，特定の条件下でシム形が二重使役構文の述語形式になる，という点もあげられる（1 節の首里の例も参照されたい）。

(16) odʒi:=ja　deNwa　ʃi:　itʃiku　kur-a-tʃa-N.（恩納，指令；狩俣 2021）
祖父=は　電話　して　従妹を　来る- CI-PST-IND
「祖父は電話して従妹を来させた。」

(17) ʔma:ga=N　ku:busa　ʃi:tegwa=ru　kur-aʃimi-ta-N.（恩納，許可;狩俣 2021）
孫=も　来たさ　していたので=FOC　来る-CII-PST-IND
「孫も来たがっていたので，来させた。」

(18) odʒi:=ja　udzasa:=ke　deNwa　ʃi:　itʃiku
祖父=は　叔父=に　電話　して　従妹を
｛ kur-aʃimi-ta-N　/　kur-aʃimira-tʃa-N ｝（恩納，二重使役;狩俣 2021）
来る-CII-PST-IND　来る- CIII-PST-IND
「祖父は叔父に電話して，従妹を来させた。」

2-b のタイプのうち，沖縄諸島の言語と南琉球の言語は，やや傾向が異なるようである。沖縄諸島の場合，s 語幹末動詞からス形の使役動詞を派生できないという条件はタイプ 1 と同様であるが，動作のきっかけによるス形とシム形の使い分けがなかった。ただし，二重使役構文の例を訳してもらうと，シム形式を選好する。

(19) *sinsi:=ja*　*masako:=nkai*　*ʔanni-ci*　*taro:=nkai*　*sumuci*　*mut-ahimi-ta-n*.
先生=TOP　まさこ=ALL　言う-SEQ 太郎=ALL　本.ACC　持つ-CII-PST-IND
「先生はまさこにいって，太郎に本をもたせた。」（平安座，二重使役）

(20) ンップー=ガ　チャーチャー=ンカイ　イーチキティ　ヤッカー=ンカイ
祖父=が　父=に　言いつけて　兄=に
キー=ヌ　ナイ　ウトゥシミタン。
木=の　実を　落とす.CII.PST.IND
「祖父が父に言いつけて，兄に木の実を落とさせた。」（宮城，二重使役；中本 2020）

南琉球で使役形式がス形式になるかシム形式になるかは，動詞の活用のタイプによって決まるようである。例えば，伊良部では，動詞の語幹末が-i の場合，シム形式の使役動詞が派生し，語幹末がそれ以外で終わるとき，ス形式の使役動詞が派生する（下地理則 2016）。宮古久松では，子音語幹動詞はス形式とシム形式の両方を作ることができ，母音語幹動詞は基本的にシム形式が可能とのことである（陶天龍私信）。なお，黒島，多良間では，沖縄諸方言と同様に他動詞派生接尾辞が後接した他動詞は，ス形式をもたないようである（荻野・原田 2015，下地賀代子 2015）。動作のきっかけによるス形とシム形の使い分けは確認できなかった。ただし，南琉球でも，二重使役構文の例はシム形式が現れる傾向はみられた。

(21) シュー=ガドゥ　ウヤ=ンカイ　トゥーツキー　アザ=ン　キー=ヌ　ナス゜ス゜ゥ
祖父=が　親=に　言って　兄=に　木=の　実を
ウトゥシミター。
落とす.CII.PST
「祖父が親に言って，兄に木の実を落とさせた。」（野原，二重使役；狩俣 2022）

(22) oto:=Nke:　tanumi　azja=Nme:　purasɿmitaz.
父=に　頼み　兄=にも　掘る.CII.PST
「お父さんに頼んで兄さんにも掘ら(さ)せた/掘ってもらった。」(来間，二重使役；金田 2022)

## 2.3　タイプ 3(シム形式のみをもつ)

このタイプは，与那国のみ該当する。与那国のス形式は，他動詞の中の一部の形式でのみ痕跡的にみられ(例 magasi(炊く・連用形)，magasjan(炊く・完了形))，使役文の述語形式としては用いられない。使役文の述語にも，二重使役構文の述語にもシム形式が表れる。

(23) maŋu=N　ʃibusakibutaba　kuramitaN.(与那国,許可)
孫=も　来たがっていたので　来る.CII .PST
「孫も来たがっていたので，来させた。」

(24) asa=ja　ijat'i=Nki　deNwakit'i　itiŋu　kuramitaN.(与那国,二重使役)
祖父=は　叔父=に　電話をして　いとこを　来る.CII .PST
「祖父は叔父に電話をして，いとこを来させた。」

(25) a=ŋa　tharu=nki　i　mag-ami-ta-n.　(与那国，指令;Yamada et al.2015)
1SG=NOM　太郎=DIR　米　炊く-CII-PST-IND
「私は太郎に米を炊かせた。」

## 3.　まとめと課題

二重使役構文の述語形式について，2 節でみてきたことをまとめると，次のようになる。
1 のタイプはス形を重ねることで述語形式を作る。(num-as-as-un 飲む-CI-CI-IND 与論)
2-a のタイプはシミラス形式が専用形式となり、条件によってはシム形式が述語になる。(num-asimiras-un 飲む-CIII-IND 首里)
2-b のタイプはシム形式を選好する。(num-ahimi:-n 飲む-CII-IND 平安座)
3 のタイプはシム形式が述語になる。(kur-ami-ta-n 来る-CII-PST-IND 与那国)

ここで，古典日本語の使役と比較しながら，シミラスのような二重使役形式の発展について考えたい。青木(2020)によれば，日本上代の使役は，述語動詞にシムを後接させた形式が主に用いられ，中古にス(サス)が取って代わるようになった。このことから，与那国のようなシム形式のみをもつタイプ 3 と上代の使役は類似する。古典日本語とは異なり，琉球諸語では，シム形式がス形式に置き換わることがなく，2-b の南琉球のように活用のタイプでス形式とシム形式を使い分ける言語が発生した。二重使役構文では，シム形式が積極的に用いられるようになり，北琉球の一部の地域では，2-a のような二重使役形式のシミラス形式が専用の形式として用いられるようになった。奄美諸島の地域では，もともとス形とシム形(+シミラス形)が存在していたが，例えば，九州方言との接触によって，シム形(シミラス形)がス形に置き換わっていった可能性がある[1]。

[1] なお，シム形式に注目すると，北琉球と南琉球では対応語形が異なる可能性がある。北琉球は*-seme-，南琉球は*-sime-;『奄美方言分類辞典』(奄美・大和村)でシムは sïmï であるため，*su か*se と考えられる。『沖縄語辞典』(首

課題として，文タイプとの関連の問題があげられる。日本諸方言の研究では，松丸（2002）が高知県幡多方言の二重使役形式について，命令文の場合，平叙文より二重使役形式が生起できる範囲が広くなるという指摘をしている。琉球諸語でも，2-a の言語において，命令文や希求文ではシミラス形式が通常の使役文でも生起する例がみられる。

(26) tuNci=Nkai　ʔucikatooru　ziN=nu　ʔamiseeraa,　ʔihwee
殿内＝に　かりている　お金＝が おありなら　少し
ʔusjuumoo　simiraci　ʔutabimisooraci　kwimisoori.
ご所望　する. CIII.SEQ　いただいて　ください。（首里;『沖縄語辞典』）

(27) nama=kara　'inaguncja=ke:　andagi:　agir-asimirasje:.（伊平屋）
今＝から　娘たち＝に　揚げ菓子を　揚げる-CIII.IMP
「今から娘たちに揚げ菓子を揚げさせろ」

命令文や依頼文，希求文は，人が人にはたらきかけて，動作を惹起させる点で使役文と似ており，また，話し手と聞き手が基本的に明示されない。この明示されない間接的な使役主体（話し手や聞き手）の存在を示すために，シミラス形式を用いている可能性がある。使役の命令文，依頼文，希求文の例を琉球諸語で収集し，文タイプと使役についても検討したい。

**参照文献**

Kulikov, L.I. (2001) Causatives. In: M. Haspelmath et al. (eds) Language typology and language universals. An international handbook. Vol. 2. Berlin etc.: Walter de Gruyter, p. 886-898./Yamada, M., & Pellard, T., & Shimoji, M,.(2015) Dunan grammar(Yonaguni Ryukyuan) Heinrich, Patrick, Shinsho Miyara and Michinori Shimoji (eds.) Handbook of Ryukyuan Languages. : History, structure, and use, 449-478./青木博史（2020）「使役」青木・高山編『日本語文法史キーワード辞典』/荻野千砂子・原田走一郎（2015）「黒島方言の文法スケッチーアクセント・動詞・形容詞の小考察―」狩俣繁久 (編)『琉球諸語記述文法 I』/荻野千砂子（2020）「八重山地方石垣島川平方言の動詞の特徴」『シマジマのしまくとぅば』1/生塩睦子（1993）『沖縄伊江島方言辞典』/加藤幹治（2020）「徳之島伊仙町方言（面縄・剣福）の動詞活用資料」『シマジマのしまくとぅば』1/狩俣繁久・島袋幸子(2011)「派生関係からみた有対自動詞と有対他動詞－石垣方言ヴォイス研究のためのおぼえがき－」『琉球の方言』35/狩俣繁久（2021）「生態学としての琉球語研究（１）」『琉球アジア文化論集』7/狩俣繁久・島袋幸子（2020）「沖縄県伊江島方言の動詞活用の資料」『シマジマのしまくとぅば』1/狩俣繁久（2022）「宮古島市上野野原方言の動詞活用形調査の資料」『シマジマのしまくとぅば』3/金田章宏（2022）「宮古来間島方言の動詞資料」『シマジマのしまくとぅば』3/菊秀史（2006~2014）『与論の言葉で話そう(1)~(4)』与論民俗村./国立国語研究所（1963）『沖縄語辞典』/下地賀代子（2015）「南琉球・多良間島方言の動詞形態論」狩俣繁久 (編)『琉球諸語記述文法 I』/下地理則（2018）『南琉球宮古語伊良部島方言』/白田理人・重野裕美（2020）「瀬戸内町請島方言の動詞活用資料」『シマジマのしまくとぅば』1/島袋幸子（2009）「沖縄県今帰仁村謝名方言の動詞と形容詞」『琉球語諸方言の動詞，形容詞の形態論に関する調査・研究』/當山奈那（2013）「首里方言における使役文の意味構造」『日本語文法』(13)2/中本謙（2020）「うるま市宮城島方言の動詞活用の資料」『シマジマのしまくとぅば』1/仲原穣（2020）「粟国村東方言の動詞活用資料」『シマジマのしまくとぅば』1/仲原穣（2021）「粟国村浜方言の動詞活用資料」『シマジマのしまくとぅば』2/早津恵美子（2016）『現代日本語の使役文』ひつじ書房/松丸真大（2002）「高知県幡多方言の使役形式：活用体系変化の一過程」『阪大日本語研究』14/松本泰丈（1983）「他動詞と使役動詞の下位分類と相互関係」『国文学解釈と鑑賞』48-6

---

里）ではシムは simijun なので，沖縄は*si か*se。